

「三田市誕生」を告げる町広報

昭和33(1958)年7月1日付で旧有馬郡三田町が市制を施行して以来、本日で50年を迎えました。写真は市制施行を伝える同年6月11日付の「三田町広報」第16号です。市制施行後最初の7月10日号からは、公募によって「伸びゆく三田」として発行され、本号で815号を数えます。



市政施行を伝える「三田町広報」

いまとまりをもった地域としての市域の誕生にかかわる記念碑でもあります。現在の本庁舎の外に残る建設当時の遺構に、町村合併の総まとめとして文字通り新しい地域の拠点づくりに携わられた先人の意気込みや労苦をしのぶのも意義があります。市制施行や庁舎新築に関する資料は既刊の『三田市史』近代資料Ⅰ・Ⅱのほか、近刊の第7巻現代資料にも収録されています。

わずか50年前の出来事ですが、当時のいきさつには資料的に不明な部分が多くあります。特に市域の西部を占めた旧相野町に関する資料や、合併後およそ一年で実現した市制施行の経緯を示す資料はいまだにほとんど見つからず、市のあゆみを考える上で大きな空白です。お心当たりの方がおられましたらぜひご一報をお願いします。

記念すべき日を迎えたにも関わらず、7月1日当日に広報紙は発行されず、また町制下で最後となった写真の「三田町広報」も、全体として抑制気味の紙面です。実際、市制当日には特別な祝賀行事は催されず、市役所新庁舎が完成した昭和35(1960)年4月になって町村合併・市制施行・庁舎落成の盛大な記念式典が催されました。

このような淡々とした市制前後の様子や、2年後の式典挙行の背景には、本市の誕生をめぐる複雑な事情が反映されていました。端的に言えば当時の三田市にとって市制の施行は、「昭和の大合併」の一環として推進され、紆余曲折を経た旧有馬郡の町村合併のひとつまであり、むしろ新庁舎の完成こそが難産であった合併の完了を象徴する出来事だったからです。その意味で基本的に当時のまま現存する市役所本庁舎は、市制のみならず、新しい